

今後の進め方(アクションプランのイメージ)

検討の視点

- 「選択」と「集中」
- 実現、実行するために、官民それぞれのプレイヤーが、「何を」、「いつまでに」行うのかプランの策定。

＜留意事項＞

- ① ユーザーエクスペリエンスの確保
- ② 相互運用性、グローバルスタンダード
- ③ プライオリティ(サービスレベルの明確化)

目 標

- ICTインフラ環境の整備・高度利活用による世界最高水準のICTショーケースを世界に発信
- 当該ショーケースから国内外へのレガシー創出

入国から、移動、滞在まで一貫した行動のシームレス化を目指し、誰もが利便性を享受する『**高度なユーザーエクスペリエンス（高付加価値な経験）**』の実現

→(例)

- ① 日本中Wi-Fiが整備され、例えば空港で入国時すぐに、Wi-Fi等を活用し、自動翻訳アプリ立ち上げが可能、移動情報、観光情報等を簡単に入手。
- ② 移動中、オープンデータの活用により、渋滞・遅延情報等リアルタイムに把握。最適ルートを提示。
- ③ 4K・8Kデジタルサイネージを活用したパブリックビューイング等により会場以外の全国、全世界での超臨場感・感動共有。
- ④ 観光、ショッピング、ホテル等で多言語翻訳システムにより、「言葉の壁」を感じることなく自国語での会話を楽しむ。

実行計画 (→アクションプラン具体化)

(1) 各分野毎の目標設定、具体的達成時期、官民役割分担、実行内容の明確化

- ・インフラ面：無料公衆Wi-Fi、5G、4K・8K、…
- ・利活用面：多言語対応、デジタルサイネージ、オープンデータ、コンテンツ展開、…
- ・サイバーセキュリティ
- ・スポーツ×ICT、都市サービスの高度化、パラリンピックの視点

(2) 各分野で想定される具体的技術・システムを、ユーザーエクスペリエンス確保、企業活動活性化等に向け、横串でサービスイメージの具体化を図る仕組みの実現

(3) サービスイメージを体感できるショーケースモデル地域による具体化

(4) 前倒し可能な目標・ロードマップの検討

推進体制

- 実行計画を着実に遂行し、目標を達成するためには、オールジャパン体制での推進母体が必要。
- 例えば、デジタルサイネージや、オープンデータなどの分野で先行的に検討。

(参考) 2020年に向けた社会全体のICT化推進プロジェクト概要(案)

- 2020年をターゲットイヤーとし「世界最高水準の我が国のICTインフラ」及び「その高度な利活用」を世界に提示。そのための目標及び推進体制の具体化
 - (1) 無料公衆Wi-Fi、第5世代移動通信システム、4K・8Kなど、ICTインフラの高度化
 - (2) 多言語翻訳、ビックデータ・オープンデータ、デジタル・サイネージ、コンテンツ発信等 高度な利活用により、実現する社会像、感動、体感するサービスを含めた具体化
 - (3) 以上を支える、サイバーセキュリティの確保による「安心・安全なICT社会」を世界に発信。

スマートな
入国手続き

スマートな
移動

競技中

滞在中

デジタルサイネージによる
観光情報等個人に最適な
情報発信

オープンデータの
リアルタイムな提供



(英語) ①This temple was built in 1020.
(訳:このお寺は西暦1020年に建てられました。)

空港

駅

宿

競技場

選手村

観光地

街

病院

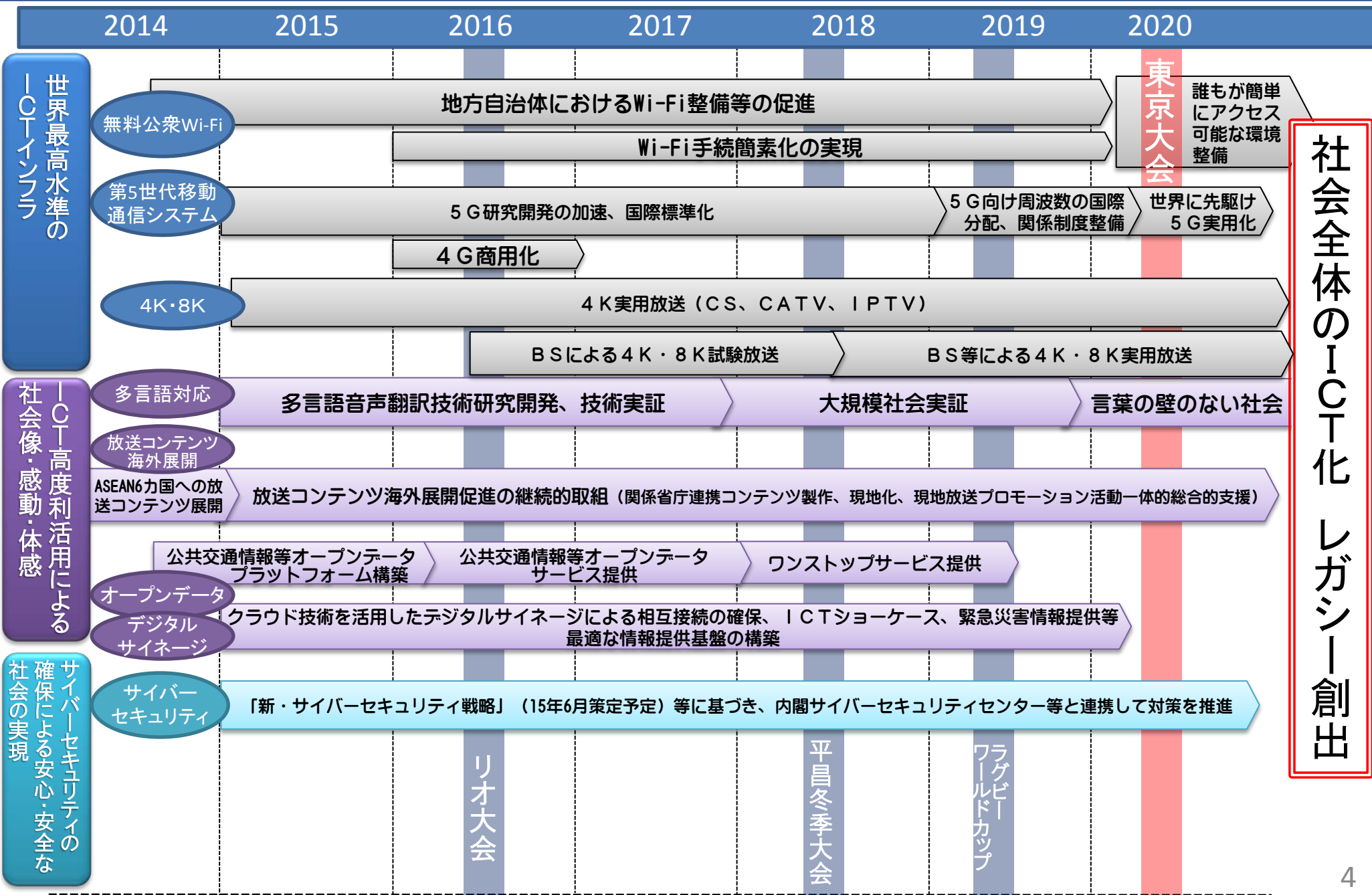
店舗

Wi-Fi全国整備、4G普及／世界に先駆けた5G実用化

サイバーセキュリティの確保による最高水準の安心・安全なICT社会実現

全国各地に波及／世界各国に展開

(参考) 実現に向けたスケジュール(現段階)



世界最高水準のICTインフラ

ICT高度活用による社会像・感動・体感

サイバーセキュリティの確保による安心・安全な社会の実現

社会全体のICT化レガシー創出